平成　30　年度

事務事業評価シート

（　　中央公民館　　）

（　　図　書　館　　）

（　歴史民俗資料館　）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目　次

1　一人一人の主体的な学習と社会参加の推進
（　1　）　みんなの教室（中央公民館）　・・・・・・・・・ 67
（　2　）　野辺地町文化祭（中央公民館）　・・・・・・・・・ 68
（　3　）　成人式（中央公民館）　・・・・・・・・・ 69
（　4　）　各世代に対応した図書館事業の実施（図書館）　・・・・・・・・・ 70
（　5　）　各種広報活動の充実（図書館）　・・・・・・・・・ 71
2　次世代を担う青少年の育成
（　1　）　文化少年団活動（中央公民館）　・・・・・・・・・ 72
（　2　）　子どもの読書活動の充実（図書館）　・・・・・・・・・ 73
3　地域を支える人材の育成
（　1　）　図書館サークル・おはなしボランティアの育成（図書館）　・・・・・・・・・ 74
4　学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上
（　1　）　親子ふれあい読書「家読」の奨励（図書館）　・・・・・・・・・ 75
（　2　）　学校等と連携協力した読書活動の推進（図書館）　・・・・・・・・・ 76
5　社会教育推進のための基盤整備
（　1　）　図書館施設の整備（図書館）　・・・・・・・・・ 77
6　文化財の保護・保存
（　1　）　県史跡「藩境塚」「野辺地戦争死者の墓所」ほか管理（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 78
（　2　）　旧野村家住宅離れ（行在所）の公開と維持管理（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 79
（　3　）　文化財調査事業（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 80
7　文化財の整備と活用
（　1　）　文化財活用事業の実施（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 81
8　郷土の歴史・文化・芸術の保存及び継承
（　1　）　民俗芸能の保存と継承（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 82
9　資料館施設の整備充実
（　1　）　特別展・各種講習会等の普及事業の開催（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 83
（　2　）　資料のデータベース作成（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 84
（　3　）　館内環境整備事業≪新規≫（歴史民俗資料館）　・・・・・・・・・ 85

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	みんなの教室	担当者名	五十嵐　勝弘

事業の目的・内容	町民の学習意欲に応えるため、魅力ある教室を開設し町民のふれあいと趣味の高揚を図るとともに生涯学習の一環として実施する。 収入　1,498,548円　（繰越232,538円　受講料1,235,000円　他31,007円） 支出　1,142,295円　（講師謝金970,368円、文化祭50,000円、事務費41,900円、備品購入費80,027円）			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	1,185 千円	1,143 千円	1,307 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成３０年５月～１０月 １３教室・サークルは、通年活動 中央公民館　（盆栽：受講者宅） ３５講座（１３教室・２２サークル）　延べ受講者数493名　開催回数758回 開講式　４月１３日（金）　閉講式　１１月７日（木） 着付け、フォークダンス（夜）、コーラス、洋裁、ヨガ（昼）、ヨガ（夜）、レクレーションダンス ちぎり絵・木目込み、3B体操、ハワイアンフラ、エアロビ・ヨガ、料理、太極拳、陶芸 フォークダンス（昼）、フラワーアレンジメント、ひしざし、和裁、絵画、琴、籐手芸（昼） 籐手芸（夜）、大正琴（初）、大正琴（中）、盆栽、尺八、川柳、囲碁・将棋、短歌、社交ダンス パッチワーク、3Ｂ体操、エアロビクス、俳句、茶道

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：講座数、受講者数ともに微増の状況にあり、各講座において実りある活動に繋がっているのではないかと思われる。 課題：高齢化により参加者が固定化傾向にあり、新たな参加者がなかなか増えない。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

特になし

評価委員意見（平成30年度）

・新たな参加者を増やす取組が大事になってくる。

・固定参加者がいるのは強みです。これからも継続を。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	野辺地町文化祭	担当者名	五十嵐　勝弘

事業の目的・内容	文化祭実行委員会を組織して開催し、芸能部門と展示部門で、日頃の練習成果や学習作品など発表。			
事業の対象	文化振興協議会・みんなの教室・一般			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	101　千円	99　千円	102　千円

事業の実績・成果等（数値）	芸能の部・・・舞踊の集い・伝統芸能と音楽の集い 平成30年10月27日（土）～28日（日） 来場者数　704名 展示の部・・・絵画、書道、陶芸、工芸、文芸、手芸、写真等 平成30年11月2日（金）～11月4日（日）3日間 来場者数　1,440名　　スタッフ60名

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：年間を通して活動した成果を発表する場として、意欲的な活動をする参加者が多く、来場者も前年度より大幅に伸びている。 課題：複数の講座に参加している方がいるため、プログラム編成がまとまらずまた、リハーサルが時間通りに進まないことも多々ある。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

芸能の部の来場者が展示の部と比べて少ないので、たとえば、この辺の民謡歌手やカラオケクラブの人などを招いてもいいのではないかと思う。
全体的に高齢化が進んでいるので、今後が心配な面がある。
来場者にアンケートを取り、どういったものを見たいか、聞いてみるのも良いと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・来場者が増えている。連続して出演する方もおり、大変と思われるので、順番を吟味してほしい。

・町民が大切にしているのが感じられます。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	中央公民館
事務事業名	成人式	担当者名	五十嵐　勝弘

事業の目的・内容	平成３０年度中に２０歳に達する、新成人の門出を祝うため、成人式を開催する。 新成人参加対象者：128名　　当日出席者：89名 収入　550,000円　　成人者より負担金（1,000円）を徴収し、写真代・送料に充てる 支出　354,440円　　記念品　182,520円　　写真代・送料等　94,000円 印刷費　64,800円　　郵便　13,120円
事業の対象	平成１０年４月２日～平成１１年４月１日生まれの成人

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	355　千円	279　千円	600　千円

事業の実績・成果等（数値）	１、ビデオ上映（野辺地中学校時代） ２、町民憲章朗読（成人者２名）本文は、成人者全員で読み上げる。 ３、式典・式辞　野辺地町長　　・祝辞　野辺地町議会議長 ・はたちの提言（成人者　３名）　　・自己紹介（成人者全員） ・記念品贈呈　・誓いの言葉（成人者　1名） ４、記念写真撮影　　主催者来賓等出席者　138人

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	□ おおむねできている	■ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	成果：大人になったことを自覚する日となり、町民皆で祝い励ます式典である。 課題：成人者の代表（はたちの提言・誓いの言葉）の人選に毎年苦労している。 一生に一度の式典のためか、保護者の方からの苦情や意見等が増加し、 式典そのものの在り方を見直す時期に来ていると感じる。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	C	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

実行委員会を新成人で組織してやっていきたいということだが、それは具体的に実現可能なのか。野辺地に残っている新成人は少ないと思うし、リーダーとなって仕切ってくれるような人材を見つけるのは大変だと思う。アイディアはいいと思うが、具体的な足がかりがないと難しいと思う。本腰でやるのであれば、一年前くらいから声をかける必要があると思う。実際進めるとなると、さらに業務量的に大変になるとは思う。
ビデオ（動画）はなかなか入手できないというお話だったので、写真をスライドショーした方がいいと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・町内在住者の方が参加率が良くない原因を明らかにし、対策を立ててほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	図書館
事務事業名	各世代に対応した図書館事業の実施	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	生涯学習施設の拠点として、０歳から高齢者までを対象とした各種事業を実施し、趣味や学習の場を提供するとともに、読書の推進と文化の振興を目的に実施する。			
事業の対象	町民（乳幼児、小・中学生、一般）			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	38　千円	38　千円	40　千円

事業の実績・成果等（数値）	【乳幼児】 ヨチヨチおはなし会（12回・親子41組延べ87名） 出前おはなし会（1回・53名） 【小・中学生】 第58回読書マラソン（1回・75名）、おはなし工房（10回・74名）、 子ども映画会（3回・44名）、第10回のへじふるさとカルタ大会（1回・17名）、 読書ｄｅスタンプラリー（2回・101名） 本の展示（通年） 【一般】 文学散歩（1回・19名）、青森近代文学館出前講座（１回・14名） 親子で☆工作会（１回・15名）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	【成果】 乳幼児から一般向けの事業を幅広く実施し、図書館を通して学習の機会を提供することができた。 【課題】 乳幼児や児童が図書館に来るためには、保護者の存在が不可欠のためまず保護者が図書館に興味を持ってもらえるような取り組みを検討したい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

担当者は慣れるまで大変だと思うが頑張ってほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・幅広い年代を対象とした行事があって大変良いので、継続してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	図書館
事務事業名	各種広報活動の充実	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	各世代に対応した細やかな広報活動を行い、図書館事業や読書活動を推進する。		
事業の対象	町民（乳幼児の保護者、小学生、中学生、一般）		
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	75　千円	70 千円	70 千円

事業の実績・成果等（数値）

○世代別図書館だよりの発行。

- 「ほんわか」乳幼児の保護者版図書館だより　2回・各390部
- 「わくわく」わんぱく図書館だより（小学生）　3回・各560部
- 「ティーンズ」図書館通信（中学生）　2回・各330部
- 図書館だより（一般）　3回・各5,550部

○ホームページ及びツイッターによる迅速な情報提供。（H22からの累計）

HPアクセス数：1,733,251件、ツイッター数：1,390ツイート（H31.4.1日現在）

【支出】

消耗品	12,756円	レンタルサーバー使用料	9,871円
インターネット利用料	22,032円	Wi-Fi設置提供料	16,524円
ワクチンソフト使用料	5,080円	フィルタリングソフト使用料	3,703円

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

【補足】

町の広報のほか、HP（町、図書館専用）や各種たよりで行事案内等の周知を図っている。

事業の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

こういったものは得意、不得意あると思うが、時間を取られてたいへんだと思う。やりながら、是非頑張ってほしい。
町の広報以外に図書館でおたよりをこのような頻度で出しているのはすごい。

評価委員意見（平成30年度）

・ホームページもツイッターも平成２２年から１０年が経過しているので、そろそろリニューアルを考えてはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	中央公民館
事務事業名	文化少年団活動	担当者名	五十嵐　勝弘

事業の目的・内容	学校教育活動以外において、青少年に文化活動を図り、青少年の健全育成を図る。 収入　146,129円　繰越金　61,129円　補助金　10,000円　入団金・材料費　75,000円 支出　123,930円　各講座活動費　78,000円　解団式・クリスマス会　45,930円			
事業の対象	小学生及び中学生			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	204 千円	124 千円	162 千円

事業の実績・成果等（数値）	文化少年団本部長　教育長　河島　靖岳 団員募集　　４月２３日（各小学校へ案内配布） 結団式　平成３０年６月２日（土）本部長挨拶 指導者紹介 団員自己紹介 誓いの言葉 講　座（５講座）　　将棋　茶道　料理　版画　郷土カルタと百人一首 指導員　　１６人　　団員数　３８名　（延べ４８名） 解団式・クリスマス会　　平成３０年１２月８日（土）　　修了証授与　　本部長あいさつ 団員代表お礼の言葉　ビンゴゲーム　お茶会　プレゼント　昼食会　解散

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果：複数の講座に加入する子どももおり、熱心かつ楽しんで受講している。 課題：指導者の高齢化により、今後の指導者不足が懸念される。 少子化やスポ少に参加する子どもが増えており、団員が年々減少傾向にある。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　■ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

団員がどんどん減少しているとのことだが、結団式の様子が新聞に掲載されていたのがよかったので、そういったPR活動をどんどんやればいいと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・休日に部活動に行っていない児童も結構いるので、やはりＰＲ活動不足と思う。一度登録したら出席しなければいけないと負担に思わせるのではなく、メンバーカードへのスタンプ等で意欲付けしていったらどうか。

・子どもにアンケートを取ってほしいです。何の講座に興味があるか、知ることができるのでは。

・子どもたちの居場所のようになっているということを知り、活動の時間帯を工夫すると、参加する人たちが増加すると思います。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	図書館
事務事業名	子どもの読書活動の充実	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	行事への参加を通し、読書推進と図書館利用の促進を図る。			
事業の対象	子ども（乳幼児、小学生、中・高校生）			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	31　千円	32　千円	32　千円

事業の実績・成果等（数値）	【子どもを対象とした行事】（再掲） ヨチヨチおはなし会　12回（親子41組延べ87名）、おはなし工房　10回（74名）、 子ども映画会　3回（44名）、ドキドキおはなし会　2回（54名）、 第58回読書マラソン　1回（75名）、読書ｄｅスタンプラリー　2回（101名）、 出前おはなし会　1回（53名）、第10回のへじふるさとカルタ大会　1回（17名）、 ○野辺地ロータリークラブ主催読書感想文コンクール（後援）　応募点数185点 ○わんぱく図書館だより「わくわく」、図書館通信「ティーンズ」発行（再掲）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	【課題】 子どもたちが図書館に行くきっかけとなる行事への参加は、保護者の協力も重要である。そのほか、学校等を通しての広報活動にも力を入れる必要がある。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

特になし。

評価委員意見（平成30年度）

・読書が活発になった図書館のニュースをテレビで見たら、読書通帳のようなものに、ページ数が加算していくというものを使用していた。

・大人の読書マラソンがあるとは知りませんでした。毎年のイベントとして続けてほしいです。

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	図書館
事務事業名	図書館サークル・おはなしボランティアの育成	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	読書の楽しさ素晴らしさを伝えるおはなしボランティアやサークルを育成し、図書館との協働による読書の推進を図る。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	10　千円	10　千円	10　千円

事業の実績・成果等（数値）	○子どもの読書に係る図書館サークル２団体が図書館行事や学校での読み聞かせを活動をしている。朗読の会「秋桜」は、平成25年度に「子どもの読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰」を受けている。同会及びお話しサークル「虹色の会」が「平成19年度に野辺地町文化賞」、「虹色の会」が平成29年度に「全国優良読書グループ」を受賞している。 ○「子ども司書クラブ」は平成28年に発足し活発な活動を行ってきたきたが、主として活動してきた子どもたちがH30年度から中学校に上がることになり、平成29年度で一度区切りをつけた。（現在1名活動中） ○朗読の会「秋桜」44回（延べ145名）、お話サークル「虹色の会」48回（延べ153名）、子ども司書クラブ9回（延べ9名） ○平成30年度教育ふれあいフェスティバルでは、虹色の会、秋桜の活動の成果を披露し好評だった。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	【課題】 各サークル会員の平均年齢が高くなり、男性の読み手や新規参加者の加入が必要となっている。学校、ＰＴＡなどの協力や、一般の方への図書館サークルの周知を図る必要がある。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

他の事業でも課題として挙げられている指導者不足について、例えば、高校のボランティア部などの団体に声掛けして、指導してもらってもいいのでは。高校生なら子どもたちも集まりやすいのではないか。毎回ではなくても、その都度依頼すれば来てくれるかもしれない。
高校生がボランティアしている様子が新聞に載れば、いい宣伝になると思う。
高校も含めて、図書館を回るツアーをやってみてもいいと思う。他の図書館がどのようなやり方をしているかも参考になると思う。そこで読み聞かせをやってもいいと思う。
町民も参加できる図書館ツアーをやってそこで、読み聞かせ会をやってもいいと思う。
町の文化祭等で、サークルの方に披露してもらってはどうか。

評価委員意見（平成30年度）

・興味のある中高校生の協力を得て、活動を継続及び拡充してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	図書館
事務事業名	親子ふれあい読書「家読」の奨励	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	肉声による親子ふれあい読書を推進するために実施。 ○　健康づくり課主催の健診・相談の場を活用したブックスタート、ブックスタートプラスを実施し、講話や読み聞かせ、ブックスタートパックの贈呈ほか ○ヨチヨチおはなし会（乳幼児対象のおはなし会）
事業の対象	○乳幼児とその保護者：ブックスタート、ブックスタートプラス、ヨチヨチおはなし会

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	10　千円	10　千円	10　千円

事業の実績・成果等（数値）	・ブックスタート事業　12回（57組延べ121名） ・ブックスタートプラス　6回（56組延べ112名） ・ヨチヨチおはなし会　12回（41組延べ87名）［再掲］ ・乳幼児の保護者版図書館だより「ほんわか」発行　2回（各390部）［再掲］

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	【考察・課題】 ・　H29年度に実施した読書活動に関するアンケート結果を見ると、乳幼児の家読率は高いが、小学校入学後は大きく低下し、小学生の「家読」向上の対策を検討する必要がある。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

小学校では本の家への貸し出しをしていなかったこともあるせいか、家で読書をする児童が非常に少なかった。現代の大学生が読書をしないのは、ネットの普及などではなく、小学生の頃に読書の習慣が身につかなかったのが主な原因だそうだ。そういった意識を大事にして、取り組んでほしい。
事業に参加した子は「家読」の習慣が身についている様子が見受けられるので、引き続きお願いしたい。
家庭での読書習慣の形成に役立てられていると思う。

評価委員意見（平成30年度）

・今や大人も子供もスマホ依存予備軍である。テレビと同じで能動的な思考ではないので、受け身人間が増えるばかり。読み聞かせと自力読書の中間に何かないと、本屋や図書館に行きたい人間には育たない。

・この事業があるので、意識して本を読んでいます。良い取組みと思います。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	図書館
事務事業名	学校等と連携協力した読書活動の推進	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	図書館サークルをはじめ、町の各種団体、学校、地域と連携し、読書の普及を図る。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	10　千円	10　千円	10　千円

事業の実績・成果等（数値）	・小学校「朝の読書」での読み聞かせ　47回（延べ会員34名、児童976名） ・保育園・幼稚園への読み聞かせ訪問　4回（延べ会員20名、園児150名） ・出前おはなし会　1回（会員7名、子ども53名） ・高校生のインターンシップ受け入れ（2日間/3名） ・中学生の職場体験受入（3日間/2名） ・図書館見学・生活科探検の受入　1回（6名） ・遠隔地の学校への配本　1回（329冊） ・幼稚園・保育園・小学校への巡回配本　11か所（1,535冊） ・団体貸出　7団体（184冊） ・野辺地ロータリークラブ主催読書感想文コンクールへの後援 ・朗読の会『秋桜』主催「朗読のつどい」への後援

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	【課題】 図書館ボランティアやサークルをはじめ、関係機関と連携協力しながら、読書活動の推進に努めていく。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	B	A	A	B	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

特になし。

評価委員意見（平成30年度）

・小学校下校時の立ち寄り（本を借りる、返す）を認め、本にふれあう機会を増やしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	図書館
事務事業名	図書館施設の整備	担当者名	貝塚　千佳

事業の目的・内容	○ 施設の老朽化に伴う修繕を行い、利用に供する。 ○ 環境整備を行い、安全・環境改善を図る。			
事業の対象	施設及び設備			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	1,910 千円	524 千円	4,825 千円

事業の実績・成果等（数値）	○主なもの ・ スロープ手摺り取付工事　　210,600円 ・ 浄化槽ボイラー屋内モーター交換修繕　65,880円 ・ ＬＥＤランプ取替修繕　37,260円 ・ 水銀灯ランプ交換修繕　117,720円 ・ 防炎カーテン交換修繕　59,292円 ・ 鍵付保管庫購入（1台）　29,160円

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	【成果】 ・ 修繕を実施したことにより、環境整備や緊急時の安全性が向上した。 【課題】 ・ 今後も修繕、環境整備を実施するための予算確保に努める。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		A	A	A	B	A	A

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

やはり、ボロボロの施設には人はこないと思うので必要な修繕はしてほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・過ごしやすい環境にしていただき有難いです。

事務事業評価シート

施　策　名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	県史跡「藩境塚」「野辺地戦争死者の墓所」ほか管理	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	県史跡「藩境塚」「野辺地戦争戦死者の墓所」「一里塚」の維持管理			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	509　千円	618　千円	528　千円

事業の実績・成果等（数値）	支出　藩境塚事業費　597,319円 戦死者の墓所事業費　20,000円 ■藩境塚　開放期間：４月１６日～１１月３０日 ■野辺地戦争戦死者の墓所　開放期間：通年 ・花壇整備は、馬門長生会に委託。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	成果：　年々、史跡は広く周知されるようになってきている。 課題：　・一里塚公有化と活用の検討。案内板等の老朽化及び記載内容の更新。 ・各史跡に設置している案内板等の修繕、施設の老朽化修繕。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
	B	B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

以前に一里塚に連れて行ってもらったが、素敵なところだった。ツアーを組んでみてもいいと思う。
藩境塚から上にある駐車場までの道が、少し雨が降るとかなり足元が悪くなるので、整備してほしい。
年に一回でもいいので、小さくてもいいのでイベントなどを企画して、ＰＲしてほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・史跡への通路がぬかるむ、などは改善してほしい。

・野辺地側の道が良くないため、歩きにくい。通路の整備が必要と思います。

事務事業評価シート

施　策　名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	旧野村家住宅離れ（行在所）の公開と維持管理	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	国登録有形文化財[旧野村家住宅離れ」の公開と維持管理。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成 29 年度決算	平成 30 年度決算	平成 31 年度予算
	金　額	393 千円	295 千円	499 千円

事業の実績・成果等（数値）	公開期間：４月１日～１１月３０日 支出　　行在所維持管理費　　294,802円 施設の公開、通常の維持管理、池掃除のほか、庭園内の樹木剪定を実施。 文化財防火デーには消防訓練を実施した。 見学者（記帳者）数：1,138人（うち町外336人） ※H29記帳者：815人（うち町外487名）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い

評価説明及び考察、課題	成果：町内見学者が増え、当町の歴史への関心を高める施設となっている。 課題：　・通常は無人の施設なので防災・防犯上の課題がある。 　　・見学者への駐車スペースの確保。 　　・施設活用事業の検討と管理・活用計画策定を検討したい。
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価		中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
	B	B	C	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

公開の時期が分からないので、もっとＰＲしてほしいと思う。
来た人が、詳しい人に説明してほしい場合の連絡先を用意するなどの対応をしてほしい。
行在所が目立たない。役場庁舎が移転してからの話になるのだろうが、整備して、公園のようにできたらいいと思う。せっかくいい財産なので、ぜひアピールしてほしい。
近くの土蔵とセットで残して、カフェにするなど有効に活用してほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・駐車スペースとセキュリティの課題を検討してほしい。

・駐車場が無いので、近くに利用できる所があれば良いと思います。また、トイレの表示がないのであれば良いと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	文化財の保護・保存	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財調査事業	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	町内の文化財のうち重要なものについて調査を行い、その保護と活用を図るため文化財の指定を進める。 町指定文化財は県文化財指定を目指し、更なる調査・保護・活用事業を進める。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0　千円	527　千円	608　千円

事業の実績・成果等（数値）	野辺地の山車行事（通称：のへじ祇園まつり）と野辺地の民俗に関する調査を実施。 調査業務は弘前大学人文社会科学部民俗学専門教授とその実習生に委託した。 並行して、文献資料調査も実施した。調査は２カ年を予定。 調査者委託者：弘前大学人文社会科学部、調査回数：5回、調査員数：24名 【当町の文化財】 ・国指定重要文化財…２件、国登録有形文化財…１件、県指定文化財…７件、 町指定文化財…７件

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	成果：　野辺地の山車行事と民俗に関する調査報告書作成の目途がついた。 課題：　・民俗に関する調査報告書発行後、民俗文化財実施者間において当文化財の継承や再構築を検討する必要性がある。（保存計画の作成も視野） ・調査報告書をわかり易く若い世代に伝える取組を検討したい。
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

のへじ祇園まつりの基礎調査における、弘前大学の学生と連携するなど、担当者は忙しくなると思うがよろしくお願いしたい。

評価委員意見（平成30年度）

・「のへじ祇園まつり」報告書の作成は、次の世代に伝える上で、大変役立つと思う。

・報告書を各祭典部に配布して、活用するように働きかけてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	文化財の整備と活用	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	文化財活用事業の実施	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	文化財の周知・活用と活用人財を育成するため、下記事業を実施した。 ①縄文PR・活用事業（ワークショップ３回）の開催 ③まちあるき（２回）の開催、北前船関連文化財に関する歴史まちあるきマップの作成 ②旧野村家住宅離れ（行在所）夜間特別公開の実施			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0　千円	278　千円	1,407　千円

事業の実績・成果等（数値）	１．縄文PR・活用事業 ①土偶・土器づくりWS（参加者/26名）、②縄文食体験WS（参加者15名） ③縄文くららグッズづくり（参加者/26名） ２．まちあるき事業　①北前船関連まちあるき（参加者/14名） ②街並み散策（参加者/12名）、③まちあるきマップ発行（発行数/３千部） ３．旧野村家住宅離れ夜間特別開放　来場者数/250名（H29/150名） 新規取組に、雅楽演奏、児童が作成した竹灯篭によるライトアップを実施。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	成果：　文化財の周知・活用を図ることが出来た。 課題：　・若い世代の文化財活用人財・団体の育成方法の検討。 ・文化財に親しみをもってもらえるような事業の検討、実施。 ・文化財の保存と活用の両立を検討できるリーダーの育成。 ・文化財を地域資源として活用できる体制の構築が課題。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

行在所の夜間開放は10月開催だとあまり紅葉がなかったが、何年か継続して実施してほしい。

評価委員意見（平成30年度）

・樹木剪定にお金がかかるのは仕方がない。縄文ＰＲはいまいち伝わってこない。

事務事業評価シート

施　策　名	郷土の歴史・文化・芸術の保存及び継承	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	民俗芸能の保存と継承	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	・「祇園囃子」「ささ踊り」「権現舞」「沖揚げ音頭」などの民俗芸能の後継者育成支援や発表機会の充実に努める。 ・映像や音声による民俗芸能の保存に努める。
事業の対象	一般（民俗芸能保存団体）

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0　千円	0　千円	0　千円

事業の実績・成果等（数値）	民俗芸能保存団体の現状調査を引き続き実施。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	□ おおむねできている	■ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない	

自己評価	D	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	成果：　民俗芸能保存団体のおおよその現状について確認できた。 課題：　・休止中の団体もあるなど、各団体後継者難に苦労している。保存・支援方法について関係者と検討する必要がある。 ・文化財調査事業の調査結果を踏まえた保存・継承方法を検討したい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	D	C	C	C	C

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

　沖揚げ音頭の後継者として、小学生は難しい。２０代３０代の人たちがやってくれればいいなと思う。
　中学生、高校生にターゲットを絞った方が、進学の推薦のために参加する生徒はいるかもしれない。
　野辺地西高校の生徒はのへじ祇園まつりに参加しているので、そこに絞ってお願いしてもいいと思う。

評価委員意見（平成30年度）

・映像や音資料の保存を行ってほしいです。

・高齢化に伴い、ますます減少すると思います。

事務事業評価シート

施　策　名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	特別展・各種講習会等の普及事業の開催	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	郷土の歴史や文化財について理解を深める講座を開催し、郷土を愛する人材を育てる。 歴史民俗資料館の維持管理の他、ボランティアガイド、企画展開催、関係団体と連携した各種講座を行う。 平成30年度展示室入館者数：1,181名（H29：821名）
事業の対象	一般

事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0　千円	2,120　千円	2,930　千円

事業の実績・成果等（数値）	１．企画展の開催（４回）　　延べ来場者数：460名 ・土偶関連企画展２回、山車行事企画展１回、図書館コラボ企画展１回 ２．各種講座の開催 ①ふるさと歴史講座（4回開催/述べ参加者数169名） ②古文書講座（入門編：15回/述べ参加者数165名、解読講習会：11回/述べ参加者66名） ３．ふるさと検定「のへじ検定」の開催　※新規 受検者：22名、合格者数：17名（合格率77%）

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い

評価説明及び考察、課題	成果：　来場者、参加者数が多く、多くの人に普及活動することができた。 課題：　・歴史に興味のない方々に対するアプローチの仕方を検討したい。 ・内容が固定しがちにならないよう、歴史に興味のある方々の欲求を聞き、飽きないように創意工夫を行う必要性がある。
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	C	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

ＰＲをもっとしてほしい。
新聞に掲載され、町外の方も多く来ているので、いいと思う。
ホームページにお知らせを載せているようだが見づらい。リニューアルされるようなので、期待している。

評価委員意見（平成30年度）

・固定層以外にも興味を持ってもらうためにも、ふるさと検定のＰＲをしっかりやってほしい。

・のへじ検定を更に進めてほしい。野辺地町に愛着を持てる人々が増えて、ふるさとを大切にすることができると思います。

事務事業評価シート

施　策　名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	資料のデータベース作成	担当者名	山崎　杏由

事業の目的・内容	歴史民俗資料館活動の基礎となる収蔵資料の整理と管理を行う。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	133　千円	482　千円	483　千円

事業の実績・成果等（数値）	・収蔵資料と古写真のデータベース作成を継続。 総資料数：19,294点（民俗資料/1,071点、考古資料/3,812点、歴史資料/14,411点） ・資料調査受入件数　5件 ・資料整備業務を実施し、創刊時からの広報のへじ並びに野辺地町議会だよりの電子データ化を行った。電子データは一般利用できるよう体制を整えた。

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：徐々にではあるが、資料の整理と管理が進んできている。 また、研究機関から資料調査の依頼受入体制を構築できた。 課題：・膨大な遺跡発掘調査出土資料の管理や収蔵スペースの確保。 ・未活用収蔵資料の管理、活用方法の検討。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

職員がやるのは業務量的になかなか難しいと思うので、うまく対応してほしいと思う。
地味な作業だと思うが、大切な作業だと思うのでよろしくお願いしたい。

評価委員意見（平成30年度）

・毎年５０万円ほど予算計上しているが、その分、着実にデータベース化が進んでいるようなので、一般利用できるところを見せてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	資料館施設の整備充実	担当課名	歴史民俗資料館
事務事業名	館内環境整備事業（新規）	担当者名	山崎　杏由

事業の目的 ・内容	施設老朽化による修繕や、利用者のニーズに答えるための館内環境整備を行う。 平成30年度は、高齢利用者から要望が多く寄せられていたトイレ洋式化と 館内土足化を実施した。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成　29　年度決算	平成　30　年度決算	平成　31　年度予算
	金　額	0 千円	823 千円	139 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	①男女トイレ洋式化工事　822,960円 ②館内展示室等土足化　0円

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：高齢者の要望に応えることができた。 課題：施設老朽化により、修繕箇所が年々増えることが推測される。また、修繕規模が大きくなることが想定されることから、施設の在り方を考えなければいけない。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	沼端委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H29参考
		B	B	B	B	A	—

評価委員意見（参考：平成29年度の評価意見）

新規掲載のため、前年度評価なし。

評価委員意見（平成30年度）

冬期間、館内は寒々しているので、今後のために空調設備の整備を検討してはいかがか。